

さけ・ます漁業振興事業調査一抄録一

佐藤 恭成・早川 豊^{*}・中田 凱久・山内 高博
蝦名 政仁・小泉 広明・山田 嘉暢

発 表 誌 名

平成5年度さけ・ます漁業振興事業調査報告書（青森県）・平成7年3月・青森県

抄 録

1. 放流適期調査

青森県日本海岸の赤石川とその周辺海域において、河川と海域におけるサケ幼稚魚の成長、分布および移動に関する調査を行った。

2. 沿岸回帰親魚調査（年令組成等）

青森県沿岸の4定点においてサケ回帰親魚の測定を行い、年令と成長に関するデータを収集した。

3. 沿岸回帰親魚調査（成熟度）

青森県沿岸の4定点においてサケ回帰親魚の測定を行い、成熟に関するデータの収集を行った。

4. 日本海さけ回帰率向上対策調査

- 1) 青森県鮭ヶ沢町赤石川およびその周辺海域において、サケ幼稚魚の分布、成長および移動に関する調査を行った。
- 2) 赤石川の河川水温およびその周辺海域の水温、塩分変化が明らかとなり、水温は河川、海域とも5月以降急激に上昇していた。また海域の塩分変化は少ないものであった。
- 3) 赤石川の水生動物の月別出現個体数では、底生動物では1月以降、流下動物では3月以降高い出現数を示した。
- 4) 赤石川におけるサケ幼稚魚の分布密度は4月下旬まで高く、5月以降低くなっていた。海域での分布密度は、5月中旬まで高く、水温12℃台まで、水深5～15mで分布密度が高かった。
- 5) サケ幼稚魚は、海域において5月中旬までに尾叉長70mmに成長していた。
- 6) 標識放流魚は、速い個体では放流後約3時間で河口域まで達し、放流後1～2日でほとんどの個体が降海したものと考えられた。
- 7) 放流後は、鮭ヶ沢漁港、小泊沖に多く分布し、津軽海峡沿岸の今別沖でも再捕された。また、大型の個体は速く移動する傾向が示唆された。
- 8) 標識魚の平均尾叉長は、5月上旬には85mmに達しており、沖合移行可能な大きさとなっていた。
- 9) 赤石川周辺海域において採集された魚類の胃内容物を調べた結果、ヒラメ1個体において、サケ幼稚魚の捕食が観察された。

※現、青森県水産増殖センター